

神馬光廣氏を偲ぶ会を開催

建具業界の先達に哀悼の意を表す 業界関係者が多数集う



偲ぶ会に参集した建具業界関係者

全国建具組合連合会及び東京建具協同組合の有志が発起人となって企画された「神馬光廣さんを偲ぶ会」が12月18日、東京都港区の明治記念館「末広の間」で開催された。

会は昨年9月29日に逝去された全国建具組合連合会の第4代会長である神馬光廣氏の功績と思い出を偲んで企画されたもの。開会の辞において東京の岩木二郎専務理事が同会の深川支部で企画した修善寺での旅行における神馬氏の逸話を紹介。次いで故人を偲んで参加者全員が黙祷を捧げた後、発起人を代表して東京建

具の岡村宣勝理事長と全国建具の小松俊悦会長が挨拶。岡村理事長は「全国建具の会長を長くに渡り務められた神馬氏は常に先頭に立ち、建具業界を支えてこられた。また、東京の組合では理事として尽力し、理事引退後も深く組合に関係していた。だき、創立からの節目に発行される記念誌には祝辞をいただいた。そこには組合の将来を心配された貴重な意見の他、組合事業を褒めていただいたこともある。我々は励ましをいただく機会に恵まれた。長年の功績と故人から賜わった恩に対し、我々が



発起人を代表して挨拶する岡村理事長

何もできずにお別れすることは耐えがたいこと。遺影の前で偉大なる先輩に敬意を表し、出席した皆様に故人の思い出話を聞かせていただくことで、神馬氏に喜んでもらえる『偲ぶ会』になると思う」と、開催の趣旨を説明すると共に神馬氏への感謝を述べた。小松会長は「今回の会を企画したところ、神馬氏に縁の深い皆様に出席をいただいた。神馬氏には建具業界として筆舌に尽くしがたい指導と尽力をいただいた。残された我々はその心を大切にして行きたいと思う。本日の会では神馬氏の功績を偲びつつ、有意義な会としたい」と、故人を偲んだ。

東京の太田明副理事長が神馬氏の略歴を紹介。神馬氏の青年期の話や組合における功績、事業所が手掛けた宮内庁や社寺などの仕事における実績が披露された。乾杯は東京の坂田龍作相談役が務め、参加者は神馬氏の思い出話などに華を咲かせた。

来場者からの神馬氏にまつわる話では、柿沢未途衆議院議員、上中節彦全国建具名誉会長、かつて神馬氏の事業所で勤務した今野敏範氏と田村功氏（共に秋田県建具組合連合会所属）が各々の思い出を語った。ま